

2011年6月29日(水)発行 VOL 30

発行者:「九条の会」事務局 ホームページアドレス:<http://www.mc.ccnw.ne.jp/kyujou/>



## みなと医療生協「九条の会」 九条ねっと

### そもそも安全な原子力発電 などない！すべては「神話」 として流布されているもの

みなと医療生協「九条の会」事務局 嶋倉和也

3月31日(火)、レインボーセンター大ホールにて、みなと医療生協九条の会主催「STOP 原発！福島の暴走から何を学ぶのか？」が開催されました。この学習会は3.11以降の福島原子力発電所を巡る状況を柘植新(つげ しん)氏(名古屋大学名誉教授・尾張旭九条の会呼びかけ人)に解説していただきながら、日本における原子力発電の危険性について学ぼうというもの。この問題はさすがに関心が高く、職員・組合員など計150名の参加があり質疑も活発にされました。

初めに職員バンドによる「ずっと嘘だった」(斉藤和義 替歌)の演奏で学習会は始まりました。

次に柘植氏は、「そもそも原発は大丈夫なのか」と問題提起した上で、日本は原子力発電を巡りいくつもの神話を流布してきた(絶対的なものとして意図をもって宣伝してきた)として、「原子力はCO2を出さない、環境に良い」「核燃料はリサイクル可能で無尽蔵のエネルギー源となる」「原子力の平和利用である」「多重防護システムで安心である」など、広く宣伝されている7項目にわたりそれぞれの誤りを指摘しました。また、国や電力会社は、その誤りを隠し、国民・地域を騙すためにあらゆる手を使って、原子力発電を広げてきた歴史があること、原子力発電は使用済みの燃料棒を

捨てる場所がない今だ未完成な技術であること、地震大国日本に54基もの原子力発電所を建設していること(外国ではまずそのような立地に建設はしていない)、それらが「安全」なものであるはずがないことを話されました。

この話には、さすがに会場からも「そうだったのか！」と言った様な驚きと、いかにこの神話(流布・宣伝)に騙されていたのかを思い知らされた、との意見・感想が寄せられました。

質疑では、「今後、原子力発電をなくしてもやっていけるのか?ライフスタイルの変更が必要では?」「そもそも、なぜこんなに原子力発電が広がったのか?」「福島は今後どうなるのか?」などがあがり、柘植氏は一つ一つ丁寧に答えていました。福島の今後については「予断をゆるさず注視しなければならない」とし、今だに国・東京電力は情報を隠しているのは明白と断言しました。

最後に、江間九条の会代表より「核と人類が共存できないのは、この事故をみても明らかだ。核をなくすために皆で頑張りたい」と挨拶され、学習会を終了しました。(学習会の様子を収めたDVDがあります)

☆☆☆☆☆☆☆☆

皆で歩きましょう!



## 核と原発はいらない

## 緊急アピールパレード!

とき:7月5日(火)

午後6:00~レインボーセンター集合

「核と人類は共存できない」「これ以上被爆者を出すな」「危険な原発はやめよう」音を出しながら病院周辺でアピールします。

## 自然調和な生活への転換を

みなと医療生協九条の会代表 江間幸雄  
今回の原発事故を通じて、僕は様々なことを学んだ…。

1、原子力が安全で、二酸化炭素を出さないクリーンなエネルギーで、しかも安価であるという「神話」にいかにか騙され続けてきたことか。これは「産・官・学」一体になったいわゆる「原子力村」主導によるものとはいえ、それを容認してきた我々の側にも問題がある。

2、「核」は人類とは共存できないということ。「ヒロシマ」「ナガサキ」そして「ビキニ」で思い知らされた日本人が、またしても「フクシマ」で過ちを犯すとは。その罪の大きさは計り知れないこと。  
3、「放射能」という悪魔は我々自身はもとより、いやそれ以上に、我々の子、孫、そのまた子孫に重い重い苦しみを与え続けるということ。

4、だから、我々の選択する道は一つしかないということ。それは1) 原発は無条件で廃止すること 2) 大胆に再生可能エネルギーに転換すること、そのために政治は最大限の努力をすること。残念ながら、今の政治は全くそうはなっていない。  
3) そして、我々の生活もエネルギーを無駄使いたない、自然と調和した生活に改めて行くこと。  
5、以上のことを実現するため、積極的な運動を展開しなければならない。

## もっとこの話を知らせたい

みなと医療生協九条の会事務局長 奥村一平  
江間幸雄先生が「福島の見通しはどうですか」と質問されたとき、講師は、見通しはむつかしい」???と答えられたので、これは酷い、大変だと思いました。もっともっと、ことの重大さを知らせていくことが必要だと思いました。

### 今後のみなと医療生協九条の会の予定

原水禁大会（長崎 8/6～8/9）

7周年記念講演会（10/25）

## 浜岡原発の運転再開は反対

事務局 中村博雄

東電や政府の対応のまずさやそれをパロってたバンドはわかりやすく参加した方々に伝わったと思います。勉強会では報道されていないことが明らかになり、情報が隠され誘導されていたんだと改めて思いました。浜岡原発再開絶対反対の声を皆で出し続けましょう。

## いま、私のしたいこと

事務局 西村民子

「見えないけれど、あるんだよ」いま、校庭で自由に遊べない子ども達があります。作物を捨て、さらに作ることを奪われた農家があります。見えない放射線と被爆、放射能汚染の拡大を目の当たりにして思います。「安全な原発などない」「核の平和利用なんてあり得ない」と。いま私がやりたいことは、「核も原発もいらない」と声に出すこと、被爆者の話を聞き、体験を語り継ぐこと。「憲法九条」を未来に残すことです。

## 原発に頼らないエネルギー政策へ転換を

事務局 堀場勝義

原発の事故以来、その危険性が明るみにでてきて、日本だけでなく世界でも「脱原発」の流れが世論として広がってきています。放射性物質からの放射線による被曝、そしてなにより放射性物質の拡散による食の汚染が心配です。また原発は使用済み核燃料の処理さえきちんと確立していない未完成の技術であり、そんなものが地震国の日本に乱立していること自体に危うさを感じます。浜岡の運転停止は、その立地上の危険性からいっても当然の措置で、これからは再開させない世論とエネルギー政策の転換が重要かと思えます。節電の意識とあわせて、これからのエネルギー政策について私たち1人1人が将来のこととして考え、行動する時期にきていると感じます。